

## 2009 年度活断層学会学会賞

授賞者： 垣見俊弘

授賞理由：

垣見俊弘会員は、1950 年代初頭の 5 万分の 1 地質図「石狩」において当時の地質学界では未だ十分認識されていなかった活褶曲を地質図上に記載した。これを初めとして、1974 年伊豆半島沖地震ほかの地震断層調査、地質調査所の活構造図作成など、地震地質学の基礎構築にあたって極めて重要な研究を行ってきた。同時にこの分野の社会的重要性を強く認め、地質調査所地震地質課の創設(1976 年)や活断層研究の成果を盛り込んだ重要施設の耐震基準立案など、活断層研究の組織整備と社会貢献の道筋を築いてきた。同氏が地質調査所内に創設し、長い間育成してきた地震地質課は、地震の学術的研究と震災軽減に立ち向かう多くの人材と研究成果を輩出し、現在の(独)産業技術総合研究所の活断層・地震研究センターに引き継がれている。さらに固有地震説、地震地体構造論、活断層運動と歴史地震の対応など、現在なお研究され続けている活断層と地震の関係に関する基本的なテーマにおいて先駆的な研究成果をもたらし、わが国における活断層研究のフレームワークを築くなど、研究のみならず社会貢献・人材育成・研究環境整備など多くの面で活断層研究に多大な足跡を残した。